

きら 煌めく 女性リーダー塾

Report #2

令和 元年度

◆公開講演会 ◆アクションラーニング成果発表会 ◆ネットワーク勉強会

このようないリーダーをサーパーバイザーといいますが、支援型リーダーともいい、メンバーの意見を汲みとり、メンバーとともに解決策を考え、チームとして成果をあげていきます。サーパーバイザーには、傾聴、共感、

意欲と能力を引き出す 心のコミュニケーションを

そもそも私たちはなんのために働くのでしょうか。収入を得るためなど、つい自分のためと考えてしまいますが、これからはぜひ相手のためと考えるべきです。相手のために働けば、能力がつく、自信ももてる、価値が高まるなど、人生を豊かにする力となって返ってきます。事実、奉仕し貢献する女性リーダーの活躍はめざましく、チームでは縁の下力もちとなって、メンバーを支え導き育み、同時に自分を鍛えています。

就職活動をすれば不採用、営業職に就けば売上げゼロだった私が、ビジネスの世界に身を置いてこれたのは、いくつもの気づきを得てきたからにほかなりません。なかでも「仕事力・リーダー力を高めることは女性の人生そのものを豊かにする」という気づきは私を大きく変えました。いまでも、困難を乗り越えさせてもらったり、原点に立ち返らせてもらったり、とても大切な振り返りどころとなっております。

自己成長と自己変革は まず気づくことから

共通講座
公開講演会

◆日時／令和元年12月12日(木) ◆場所／富山県民共生センター サンフォルテ

5つの法則

リーダー力を高めて仕事と人生を豊かにする

〜今の時代に活躍し続ける女性リーダーになる秘訣とは？〜



癒しなどのスキルが求められます。そしてまた、これらのスキルに深く関わり、さまざまなメリットをもたらす、コミュニケーション力が求められます。

話すときに意識したいのが3つの感を満たすことです。相手に、自己重要感、有能感、好感を抱かせる言葉や表現を用いれば、メンバーの意識と行動が変わります。聴くときに意識したいのが「話させ上手」になることです。最後まで聴く、会話泥棒にならない、興味・関心をもつなどを大切にして耳を傾ければ、短時間で本音を引きだせる生産的な会話が叶います。このような「ミニミニテーション」は、さらなる能力向上やよりよい人間関係をもたらします。くわえて、モチベーションアップにも有効です。メンバーに仕事を依頼するとき、「こんな理由があるからあなたに任せたい」とか「この仕事を乗り越えれば、今後のキャリアにもプラスになる」といった意味づけをすれば、メンバーはやりがいを感じてどんどん走りだしてくれそうです。

株式会社クラウド代表取締役社長 山本 幸美氏

仕事と生活の相乗効果を生み出す 自分自身がロールモデルに

女性リーダーとして幸せに働き続けるためには「応援され力も必要です。このとき役に立つのが、ワーク・ライフ・シナジーという考えです。仕事で学んだことは生活にいかせ、生活で学んだことは仕事にいかせるという考え方で、マイナスに捉えられがちな育児や介護による時間的制約も、効率をあげるノウハウの習得や、時代にあった働き方の提示をはじめ、いくつものプラスを生み出す糧にしていきます。パートナーに育児参加を促したり、メンバーを適材適所に巻きこんだり、ひとりで抱えこまない工夫をしつつ、この仕事と生活の相乗効果を生みだしていくべきです。

最後に、完璧な女性でない方が魅力的なリーダーになれるということをお伝えしておきます。失敗や挫折や遠回りがあっても、そこからしっかりと気づきを得て、ひとりひとりがロールモデルになりましょう。探す必要はありません。たくさんロールモデルがいるほうが、企業も女性活躍推進もきつと盛りあがるはずです。



アクションラーニングコース

◆日時／令和元年12月12日(木)

◆場所／富山県民共生センター サンフォルテ

成果発表会／フィードバック

アクションラーニングコース6グループ28名による、渾身のプレゼンテーション終了後、フィードバックのためのグループワークがおこなわれました。



発表者と聴講者がグループをつくり、発表者はプレゼンテーションを通じて気づいたことや掘りさげたいことについて、聴講者はプレゼンテーションを聞いて感じたことや考えたことについて述べ、さらに、聴講者は付箋にコメントを書いて発表者に渡しました。

企業関係者、卒業生・現塾生、女性など、聴講者がそれぞれの立場から語る感想や意見はいずれも意義深く、発表者はプレゼンテーションのブラッシュアップにつながる気づき、そして、モチベーションアップにつながる励ましを得たようでした。



共通講座

◆日時／令和元年12月12日(木)

◆場所／富山県民共生センター サンフォルテ

ネットワーク勉強会



公開講演会に引き続きおこなわれたネットワーク勉強会では、スキルアップコースとアクションラーニングコースの塾生が参加してグループディスカッションをおこないました。塾生たちは、講演を聴いて

感じたことや考えたことのほか、当塾で学んだことをどう活用して実践するかについて発表しあいました。さらに、これを踏まえて、年末までの短期間に達成できる「ちょっとした目標」を策定し、カードに記入しました。

カードはデスクまわりなどいつでも目にできる場所に置いて、「ちょっとした目標」をつねに意識できるようにするものです。塾生

たちは目標を見据えて仕事に取り組む1日1日を積み重ね、「今度の交流会でいい報告ができるように」との想いを胸に、最後の研修を終えました。



アクションラーニングコース

◆日時／令和元年12月12日(木)

◆場所／富山県民共生センター サンフォルテ

修了式

令和元年度「煌めく女性リーダー塾」アクションラーニングコースが修了式を迎えました。

アドバイザー挨拶として、光地富子氏(北陸電力株式会社 人事労務部 副部長 ダイバーシティ・教育担当、研修センター 所長)からは「チャンスを引き寄せるために、好奇心、持続性、柔軟性、楽観性、冒険心を持って進んでほしい」、高橋博子氏(株式会社北陸銀行 ほくぎんファボーレプラザ 所長)からは「当塾で得た学びと繋がりをいかながら、仕事でもプライベートでも煌めいてほしい」とのエールをいただきました。

つぎに、塾生代表挨拶として、高柳しのぶ会長から「みなさんの発表を聞いていますと「富山県、いまからバリバリいくな」と感じた。この勢いを増せるよう前向きに頑張っていきたい」との抱負が語られ、塾生、県関係者、運営スタッフの晴れやかな笑顔が包むなか修了式を終えました。



アクション
ラーニングコース
成果発表会

日時／令和元年12月12日(木)
場所／富山県民共生センター サンプルホール

発表内容

アクションラーニングコース
9月25日に開講したアクションラーニングコースでは、約2か月半にわたり、「自己変革と組織貢献」をテーマに取り組んできました。各塾生は自己の課題に目を向け、グループワークや周囲へのインタビューなどの宿題を通し、自己理解を深め、自分らしく組織に貢献していくための方法を考えてきました。その成果として、各自が〇年後のありたい姿に向けたアクションプランを作成しました。12月12日の成果発表会には、聴講者として当塾参加企業のご担当者や卒業生も招き、6チーム28名が1人3分間のプレゼンテーションで自身のアクションプランを発表しました。



アドバイザー講評

北陸電力株式会社 人事労務部副部長
ダイバーシティ・教育担当 研修センター所長
光地 富子氏
どの発表も個性がいける素晴らしいものでした。今回、自己分析により浮き彫りとなった、自身の大切にしたい価値観や目指したい理想像に向かって、ますます自分らしく頑張ってください。



アドバイザー講評

株式会社北陸銀行
ほくぎんファボレプラザ所長
高橋 博子氏
内容が充実しており工夫も凝らされた発表で、みなさんの成長を感じました。当塾で養った、思考力、提案力、解決力を、業務にもぜひいかしていただきたいと思います。



講師講評

株式会社クオリアアソシエイト講師
繁村 早百合氏
他者や会社ではなく「自分がどうしていくのか」に焦点を当てて挑戦しようとする姿に頼もしさを感じました。いま宣言したことを実践し継続すれば、さらにランクアップできるはずです。みなさんが、しなやかに、したたかに、活躍することを期待しています。



スマート

【テーマ】
想いをスマートに伝えられない、コミュニケーションの壁という課題に直面しながらも、組織に貢献していくにはどうしたらよいかを考えた。

- 【私のアクションプラン】
- 佐藤 弘枝(立山マシン株式会社)
コミュニケーションの機会をつくり、課題解決やモチベーションアップをはかることで、個人の自発的行動を促し、組織の体力強化を叶える。
 - 山田 薫(前田薬品工業株式会社)
論理にも感情にも訴えかける伝え方をすると、社内外を問わずメンターを見つけ助言をもらうことで、お客様とWin-Winの関係を築けるようになる。
 - 清水 志律香(アルビス株式会社)
上司に頼るべきところは頼りながら、採用担当者としての主体性をもって、アルビスで働く魅力を熱く伝え、ひとりでも多くの人材を獲得する。
 - 松木 保苗(株式会社リッチェル)
個人の特性にあわせた伝え方や導き方で、業務改善を実践・継続することにより、自社ブランド向上の取り組みを推進できる基盤をつくる。
 - 国沢 智巳(協和ファーマケミカル株式会社)
助け合い乗り越えるをモットーに、真正面から主張するよりも、縦に横に橋渡しする役割を担い、じんわりと周囲に良い影響を及ぼしていく。



十人十色

【テーマ】
それぞれのワークスタイルとライフステージから、理想のワーク・ライフ・バランスを実現するにはどうしたらよいかを考えた。

- 【私のアクションプラン】
- 田村 裕香(トナミ運輸株式会社)
仕事の充実と生活の充実の相関性を実感しながら、自己開示や相互扶助によって、リーダーひいてはロールモデルとなれるよう努めていく。
 - 釜倉 美穂(北陸電機製造株式会社)
「残業しない」というスタンスを変えることなくロールモデルとなるために、効率よく仕事をすのノウハウを学習し蓄積し発信する。
 - 橋本 美由紀(株式会社インテック)
コミュニケーション力の向上により、ひとりで頑張るからみんなで頑張るに転換することで、ライフとワークに相乗効果と好循環を生み出す。
 - 奥村 安佳里(株式会社インテック)
時間的制約があるなかでも成果をだすウルトラマンになり、同時にそのマインドを受け継ぐウルトラ兄弟をつくって、個々の武器がいけるヒーロー集団を目指す。
 - 小柳 真美(株式会社スギノマシン)
女性も男性と同等に評価されているという意識のもと、自己開示や改善提案に努め、「男性中心の職場の壁=自分自身の壁」と捉えてその打破に挑む。



Natural

【テーマ】
自分らしいリーダーシップとはなにか、また、それを発揮していくためには、どんな課題があり解決策があるのかを考えた。

- 【私のアクションプラン】
- 花崎 裕美(田中精密工業株式会社)
論理的思考力をいかに自己開示力を鍛えて存在感を高め、これによって時間的制約があっても活躍できることを体現し、人材育成という組織貢献につなげていく。
 - 松木 由美子(東京海上日動火災保険株式会社富山支店)
行動力・挑戦力を高めるために自己を磨き、視野を広げるために俯瞰的視点もち、提案力を伸ばすために発言の経験を積み、周囲を巻きこんでいける存在になる。
 - 平田 順子(アイシン軽金属株式会社)
点と点をつなぎ改善に導くリーダーとなるべく、組織内での課題共有、明確かつ具体的な目標設定、チーム連携による企画遂行に努め、活力ある企業づくりを目指す。



Let it go ~ ありのままの自分 ~

【テーマ】
「インポスター症候群」をキーワードに、長所も短所も含めて等身大の自分を認め受け入れるには、どうしたらよいかを考えた。

- 【私のアクションプラン】
- 野崎 淳子(株式会社富山第一銀行)
資格取得、コミュニケーション力の向上、ポジティブ志向の獲得により、個人と組織に好影響を与えられる自分になり、仕事もプライベートも充実させ人生を楽しむ。
 - 丸谷 明子(株式会社リッチェル)
少しの勇気をもってまずは一歩踏みだし、コミュニケーションやリフレーミングによりチームを底上げし引っ張る、ポジティブリーダーシップを目指していく。
 - 片桐 綾花(北陸電力株式会社)
コーチング・ティーチング技術の習得などにより自分の枠を広げ、目的を共有し多様性を尊重しながらいきいきと働ける「ONE TEAM」をつくる存在となる。
 - 古小路 美紀(株式会社スギノマシン)
自ら考え、自ら動き、挑戦を続けることで、親しみあるロールモデルとなり、自分らしいリーダーシップを発揮して、自己成長と組織貢献につなげる。



BOSS

【テーマ】
若手社員教育における課題解決をはかろうとすると、リーダーとしてなにを拠りどころにし、個人と組織をどう導くかを考えた。

- 【私のアクションプラン】
- 八倉巻 智子(株式会社アイザック)
若手社員にとってよきメンター・ロールモデルとなり、誰もがのびのびと働ける環境の整備からはじめて、組織全体をよりよく機能させていく。
 - 高柳 しのぶ(損保ジャパン日本興亜株式会社富山支店)
新たな可能性を拓く自己研鑽と、適正な時間管理と良好な人間関係に重点を置いた人材育成により、「One for all, All for one.」のもと戦えるチームをつくる。
 - 賀田 陽子(アシステム税理士法人)
スタッフ間の壁を破り、レスピロシティなどで影響力を高め、筋の通ったリーダーシップを発揮するとともに共感・納得しあえる人間関係を構築する。
 - 河角 加奈(前田薬品工業株式会社)
自信のあるふりをする、興味のあるふりをする、空気を読まない、見返りを求めないという4つを実践し、理想的なメンター・メンティーの関係を目指す。
 - 中川 彩子(北電産業株式会社)
専門知識、育児経験、情緒豊かななどの強みをいかし、仕事で煌めく自分、家庭や地域で煌めく自分であり続けて、若手社員の成長・進化につなげていく。
 - 寺崎 敦子(高岡信用金庫)
自分らしいリーダーシップを発揮して、情報共有の促進、周囲との関係深化、メンター制度の導入提案を進め、成長で魅力ある人づくり・組織づくりに努める。



チームConfidence

【テーマ】
今後、キャリアを築いていくなかで、自信がもてずにいる状況をどのように克服し、どのように成長していくかを考えた。

- 【私のアクションプラン】
- 谷口 陽子(損保ジャパン日本興亜株式会社富山支店)
100%完璧でなくてもとにかくやってみることで、経験を積み、自信を培い、仕事を安心して任せられるスキルと能力をもった存在になる。
 - 堀 篤子(株式会社スギノマシン)
仕事の幅を広げるためにも、勇気をもって一歩踏みだし、経験と成功体験を積み重ねることで、自信をもって自分らしく組織と社会に貢献していく。
 - 榎 千絵(三井住友海上火災保険株式会社)
成功も失敗も糧にして進むマインドと、職場のモチベーションアップにつながるアクションを大切に、自信をもって走り続ける「成果ランナー」になる。
 - 松島 愛(東京海上日動火災保険株式会社富山支店)
成功体験を蓄積して自信を高め、ネットワークを拡大して連携を密にし、Give & Giveの精神でまわりに影響を与えられる存在になる。
 - 串田 真由美(株式会社北陸銀行)
経験を積んで自分の自信を育てると同時に、コミュニケーションをとるなどして周囲のやる気を育て、チームをよりよく導くマネージャーを目指す。

